

## 図画工作教育講座7 《 造形遊び・工作・立体 》



このキリンは、造形遊び？それとも工作？

造形遊びと工作の違いは？

- \* 適当に木片を組み合わせていたら、キリンの形が見えてきた。 **体験活動**
- それじゃ、キリンにしよう。→結果としてのキリン
- \* キリンをつくるために、必要な木片を集めて組み合わせた。 **製作活動**
- 頑張っ、キリンができた。→目的としてのキリン

**造形遊び** 造形遊びは体験活動 作品をつくることが目的ではない。



\* **材料の体験** 乾いた砂のさらさら感や湿った砂のしっとり感、新聞紙の縦目と横目の裂け方の違いなど、材料の質感や量感を体験することが目的。



\* **空間の体験・場所の体験** 蜘蛛の巣遊びで教室の空間を視覚化する体験、トンネルづくりで閉所を体験、体育館に段ボールを並べて広がりなどを体験すること。



\* **発想の体験** こんな場所でこんな事ができるんだ、こんな材料でこんな事もできるんだという発想の転換を促す体験をすること。  
つまり 子どものデータベースを増やしてやること。

**工作** 工作で使う道具は、怪我につながるものがあるので要注意。

怪我で血を見たら本人はもちろん周りの子も意欲が喪失。

※ついでにトラブルの対処について（最優先は学校で怪我をさせないことなのだが）

- ① 1人で抱え込むな 必ず相談すること。上司は年の功、対処の仕方を知っている。
- ② 電話で済ますな 電話だけで終わらず、相手方に出向く。直接顔を合わせて話をしないと気持ちは伝わりにくい。出向いてきたことで相手の感じ方も変わる。
- ③ 先送りするな 人は自分に都合のよい解釈をする。時間をおけば冷静になるだろうと思っても実際には逆。状況はますます悪くなる場合が多い。その日のうちに行動する。
- ④ 言い訳するな 我が子の怪我に親は動転している。事実関係を説明しても、理解する余裕がない。会ったとたんに説明を始めても責任逃れの言い訳と受け取られかねない。（本人の不注意が原因の場合は、特に、）  
「本当に申し訳ありません」と自分の誠意を伝えながら親の気持ちが落ち着く事を優先する。

造形遊びと工作の違いは説明しやすいが、立体と工作の違いは分かりにくい。例（紙を使った工作）  
子ども特有の何でもありの表現形態として無理に分ける必要はない。

## 立体

工作と立体（主として粘土）は区別せず一体的に扱うことが多い。

油粘土 手触りを楽しむ（粘土作業の共通特性）  
何度でも作り直せる（可塑性）  
※特有のにおいを「油臭い」と感じる子もいる

紙粘土 工作と併用することが多い。  
着色で多彩な表現ができる。

土粘土 高学年で一度は経験させたい材料。紐づくりと板づくりの技法がある。

液体粘度 布や紙に塗る粘土。粘土単体で使うことはない。着色可。



\* 造形遊びが最も重要だと思う。造形遊びはあくまで遊びで、子どもたちに技術を求めることは無いからである。図画工作は、子どもたちの情操を養うことが目的で、芸術家の卵を育てるわけではない。生涯学習とするのが望ましい形である。

何かこれを作ろうと目標に向かってつくることも大切だが、逆のアプローチも子どもたちの個性を育て、意欲的にさせると思う。造形遊びを基盤として、楽しさを教えたうえで目標を立ててものをつくることがあったほうが良いと思う。

\* 私は、授業中の怪我や事故を起こさないようにする対策と、万が一起きてしまった場合の対処法をしっかり把握しておくことが重要だと感じた。その理由は、せっかくよい作品ができて、怪我や事故が起きてしまうと元も子もないからである。授業でトラブルの対処法を学んだが、私なら、この4つのポイントを全部、逆のことをしかねないと思ったので、これが最も重要だと思った。

\* この図工の講座では、たくさんの技法、こんな子どもへの対応法など様々なことを教えていただきました。どれも為になることばかりで、将来必ず役に立つポイントだと思いました。その中で事故対処の4つのポイントが特に重要と思いました。

